

文芸欄

俳句

投句二三句 掲載一〇七句

紅梅会(東)

見上げれば山の灯にじむ夕時雨 平田 恵

さつと来てすぐ降り止めし春一番

艶めきて桃割の客花舞

台 安部美恵子

コロナ禍のよぎる夢見

の春風邪 安田早智子

初夏の風母の白髪戯れ

て 武山比佐美

山茶花のひっそりや冬

温し 荻原扶喜子

天と地と互恵の耕す梅

雨あさ 石田 朋子

梅苑句会(東)

片陰を選びて歩む老夫

婦 山田しづ子

ワクチンを受けて一息

梅雨晴間 時枝千穂子

駆け来る白靴眩し通

学路 深沢 清子

若葉句会(東)

再会の句会に浴衣会な

ごみ 松本 弘子

躍動の浴衣くづさず阿

波女 大野 静也

裁縫箱とりだし孫の浴

衣縫ふ 玉井 啓子

笹に吊る帰れませうう 盆休み 伊藤 秀子

花弁散りくちなしの花 香り立つ 横田 昌子

宝愛句らぶ(中)

集まりてビールで乾杯

いつの日か 和子

ビール飲む爺じの真似

する孫二人 悦子

少しづつ暮れゆく空に

夏の月 千枝子

居残りの部屋に差し込

む西日かな 道子

雷鳴に腸揺れる避難

小屋 丘

短髪で我は海の子夏が

好き 芳子

ビール栓歯で抜きし先

輩!凄! 和志

夏の月横顔怪しみだれ

髪 哲男

傾けて二人となりぬ夏

日傘 啓臣

梅の美会(兵)

みちのくのみやげ話し

に風鈴や 西 千賀子

よき人に従いゆきて螢

狩り 藤井 歌子

ぬか添えて泉州水茄子

届く朝 山田 朝子

亡き父の商い屋号の洩

高原ささゆり会(北)

夕立に野辺の草花踊り

けり てる子

カワセミを漢字にする

と翡翠かな かんいち

十葉や匂いも束ね陰干

しに 山下 久一

水草にかくれんぼする

メダカの子

佐藤かなめ

禅寺にころろ落ちて半

夏生 松村二三枝

散り敷いてなおも目を

引く凌霄花

若林 節子

花山会(北)

七夕や戦中に家焼かれ

しも 林 巳三子

青鳶や球児見守り半世

紀 井関 礼子

ひまわり句会(北)

雑草も野菜も元氣梅雨

の畑 石井 敏子

八十路にて七夕飾り夢

託す 辻 寿賀子

ひよどり台句会(北)

涼しげな葛餅買って急

ぎ足 塩見 光子

梅雨出水救助のポート

三伏や葉隠れインゲン

探す朝 松本 洋子

砂浜の蹴の重き身の軽

き 黒田 久江

中伏や接種を終へし妻

の顔 増田 嗣夫

はち切れむばかりの素

足須磨海岸

藤井久美子

七月や青色シャツの貝

釘 久松 礼子

福寿草句会(須)

梅雨晴れの空へさよな

らホームラン

上原 綾子

蜘蛛の罫の修羅場に静

寂もどりけり

松下修二郎

新調の白のシューズの

卒寿かな

岩田美代子

父の日や補聴器届く歳

となり 林 慎一

山の徑葉蔭に淡きねむ

の花 高見希豫子

万緑に吸い込まれ行く

縦走者

藤田 栄一

多聞台ときわ会文芸部(垂)

梅雨明けを聞くまでも

無き今朝の風 大上 昭敏

さらく句会(西)

坂道をのぼりて見上ぐ

夏椿 山本スミ子

樹から木へ巣立ち助け

る親燕 大橋 治子

シャンソンの濡れくる

ロビー合歓の花

阪本 道子

庭植のきゅうりはどれ

も規格外

田野 湯仙

一日の花とし沙羅の夕

翳り 森本 珠実

笹飾り幼き文字の「あ

りがとう」

喜田 弘征

月が丘むつみ会(西)

子すずめや庭木に二匹

仲の良さ

藤森 勝子

十六夜や私の影踏み家

路歩む 川上 富範

蟬しぐれ夏の終りを告

げて鳴く

武井 勇二

個人

二回目のコロナワクチ

湯上がりのまずは一杯

水水 (須)渡辺真佐代

真珠橋灯火親しむバス

トライン

(垂)根本 一

「つぶ声」をあけてパ

タつく庭のせみ

(垂)藤田 恵子

洗ひ髪傘寿過ぐ日々に

とおしき

(垂)山田としゑ

特等席先客の猫端居か

な (西)小幡美沙子

葉隠れに腕ほど太き胡

瓜かな (西)寺岡 洋子

短歌

花山短歌会(北)

星型のアルジュリアの

星小さき花次々咲かせ

亡き夫思う

船崎めり子

川柳

桂木ひふみ会(北)

見直せば父母も妻子も

過ぎる人

荒木 宗久

背に意気様をみる車椅

子の母 京念久美子

椅子席かまず確かめる

手を振れば五輪マスク

コトこら見て愛敬た

つぷり手を振りかえす

磯元カヨ子

コロナ禍にて自治会館

が使えずに老友会はグ

ラウンドゴルフのみ

山田加壽代

個人

白き日傘傾け見上げる

桐の花淡き紫梢に高く

(垂)上田 節子

この歳でワクチン予約

クタクタにお助け隊に

嬉しく感謝

(垂)酒井 郁美

白ユリの香りやさしい

花よりも私は好きだ

桔梗の花

(中)あさとし

さざ波の波にほどけし

海童行き交う船に海鳥

戯むる

(中)水口 敏子

個人

おんだん化地球世界は

どうなるの まり子

増えましたマスクのお

陰か美男美女 まさこ

コロナ禍はオリンピック

ク変えたかなすべて美

し「なおみ」は登る

(北)真木香代子

布引のハーブ園へとロ

ープウェイ車窓の彼方

神戸空港

(須)江口 啓子

ほの暗いみかん樹の下

にドクダミの白い小花

が匂う夕暮れ

(西)秋山シズエ

土に穴葉に抜け殻をぶ

らさげて桜の幹で樹液

吸う蟬

(西)古西 澄子

山里の古老の方から葉

草の効能を聞き菜園に

植える

(西)瀬尾省二郎

ごう音と渦の模様の白

波は引き込むように船

をば揺らす

(西)松浦 妙子

へなぶり

炎天下トマトゴウヤの

水やりも娘の笑顔見た

くて八十路 (北)清水 久子

あとがき

あとはコロナが一

日も早く収まってく

れることです。

オリピックも終

りました。中止せ

よとか無観客はど

うかと言われました

が終ってみれば、

外国からの評判も良

いようです。

あとはコロナが一

日も早く収まってく

れることです。

愛宕プラン 12,800円~

かんぽの宿 有馬

かんぽの宿